

図1 呼吸器外科の手術件数.

山形県がん診療連携拠点病院として、原発性肺がんや転移性肺腫瘍などの肺悪性腫瘍手術を中心に、縦隔腫瘍・胸膜腫瘍(胸膜中皮腫を含む)に対する手術治療を行っております。また、救命救急センターを有していることにより、自然気胸を含む嚢胞性肺疾患、膿胸や胸部外傷などの緊急性疾患の手術治療も行っております。一般に手術件数が病院の手術成績を反映するといわれます。当院の肺悪性腫瘍に対する手術は年々増え、その一方で手術の安全性は高まり術後合併症および手術関連死亡率は0.5%未満です。

2020年～2022年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、感染症内科、呼吸器内科との協力のもと感染対策を行い、2023年以降は通常通りの診療を行っております。2022年からはロボット支援下手術が可能となっており、肺がん、転移性肺腫瘍に対する肺葉切除および区域切除、縦郭腫瘍に対する縦郭腫瘍摘出術にも適応しております。

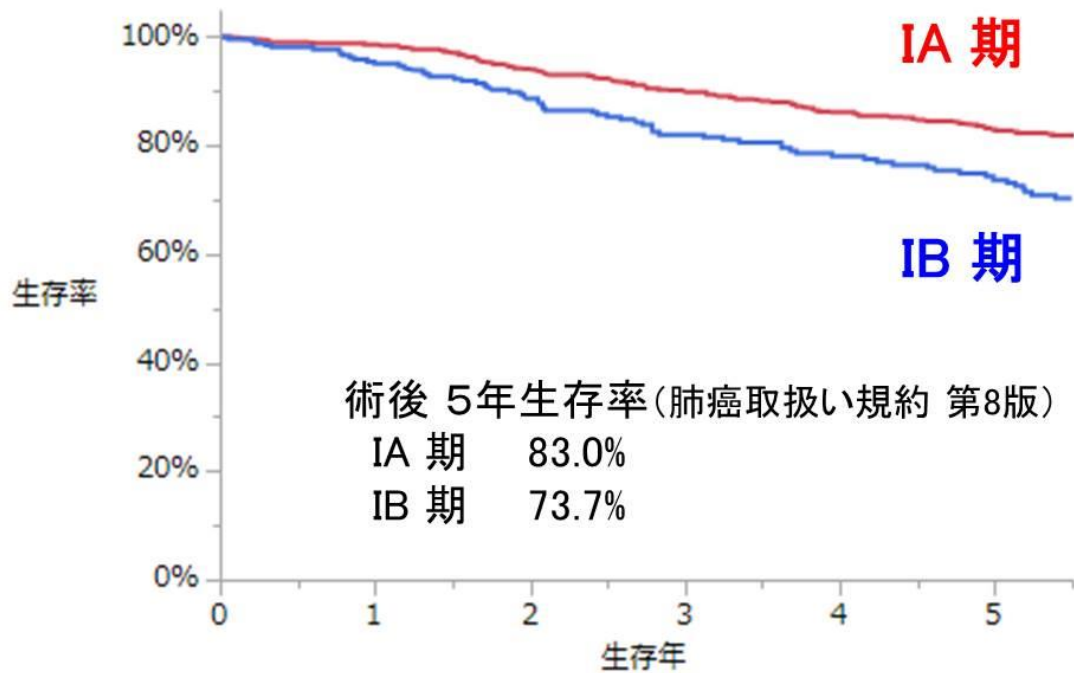


図2 肺がん手術の治療成績

がん治療成績の多くは手術後5年目の生存割合を算出したもの(5年生存率)を目安にします。

このグラフはリンパ節転移のない患者さんを肺がんの大きさ(3cm以下をIA期、3.1cm以上をIB期)で分けたものです。肺がん手術を行うことにより、ステージI期の患者さんの5年生存率は80%前後になっています。この手術の治療成績は年々良くなっていますが、肺がんはなるべく早期に発見し、治療することが重要です。